

文京区男女平等センター

Equality

2023
105号

誰もが平等の権利を持つ社会へ

まつり特集

Contents

- 男女平等センターまつり
- 講演会「配偶者暴力（DV）と子ども」
- 文京区ダイバーシティ推進担当から

第38回 男女平等センターまつり

～きのう きょう あしたへ～

“今こそ平和と平等を、この地から”

2023年10月28日(土)、29日(日)
文京区男女平等センター

28日(土) **講演会**

講師：高尾 美穂さん

心が揺れがちな時代に「私は私」で生きるには



様々な著書やテレビ出演などでご存知の方も多と思います。女性のための総合ヘルスクリニック「イーク」の副院長でありヨガインストラクター、スポーツドクター、産業医としても活動されています。

今回の講演会では、著書の「心が揺れがちな時代に『私は私』で生きるには」をもとにお話をいただきました。コロナ禍で制約の多い生活から戻りつつあるものの、変化についていけずもやもやとする日々の中で、この本からたくさんの勇気をいただきました。

題名にもあります「私は私」を始め、自分らしく生きる、コミュニケーションの仕方、高尾さんがこの人生でしたいことなど、様々なお話をいただきました。

自分らしく生きる中で、「私は、これが好き、と思えるものにかこまれていますか？」との問いかけに、自分の周りを想像してみました。好きな人、好きなもの、いろいろと思いつくものがあります。中には何となく置いているもの、使っているものもあります。身の回りを改めて見直してみようと思いました。

また、言葉で伝えることの重要性についてお話がありました。私たちは、日々、当たり前で他人と言葉でコミュニケーションをとっていますが、そこで使われる言葉は思いのほか少ないそうです。日本語には豊かな言葉があるのに使われるのはごくわずかです。例えるなら氷山の一角。自分が使える、いわば見えている部分だけではなく、自分が使えない、見えていない部分を豊かにする努力が大事になります。本や新聞など、いろいろなものに触れることで、自分の気持ちを伝えたい時にぴったりの言葉を引き出せるようになるそうです。これは、必ずしも活字に触れることに限らず、様々な経験を積むことでも良いそうです。場面に応じたピッタリした言葉を使うこと、伝える努力が大切とのことでした。先生によると、日本語には情緒があるとのことですので、単に知らない言葉を勉強するというのではなく、素敵な言葉との出会いを楽しみたいです。

最後に伝えたいこととして、「皆さんに幸せでいていただきたい。なぜか？皆さんのためだけでなく、周りの人も幸せを感じるから。」とお話してくださいました。

人と接するとき、不機嫌、怒り顔でいるよりも笑顔でと心がけていますが、それが自分だけでなく周りの人にも伝わるのであれば、これからも続けていきたいと思っています。

10月28日(土)、29日(日)2日間にわたり、第38回男女平等センターまつりを開催しました。今年のテーマは、「～きのうきょうあしたへ～“今こそ平和と平等を、この地から”」です。舞台発表・作品・パネル展示・ワークショップ等を行いました。お茶席では、非日常の楽しい時間をお過ごしいただけたと思います。メイン展示は、SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)をテーマに、性差医療・男女の更年期を取り上げました。昨年の実物展示「フェムテック」につづき、新しい試みとして「メンテック」(8頁参照)の実物展示をしました。資料コーナーではジェンダーやSDGsなど幅広い年代に向けた本を紹介しました。今回は「おやすみ処」を設けましたので、ほっとしたしばしの時間を持たれたのではないのでしょうか。4年ぶりにコロナによる制約のない開催となり、センター全体が華やかに賑わい、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



29日(日) まつりシネマ 『老後の資金がありません!』



©2021映画『老後の資金がありません!』製作委員会

まつりシネマは、お金についてのお話です。主人公の主婦が「思わぬ出費で危機に直面」。誰にでも起こりうるアクシデントが人生後半の夫婦に次々と起こります。出費は嵩むが収入はない。経済的危機を迎えた二人ではありますが、コメディタッチで描かれ会場にはところどころ笑いが起きました。老後の資金について2つのことを思います。「映画では国や評論家が2,000万、4,000万必要とありましたが、そんなに要らないだろう」という安心感と「ここ最近の物価高では4,000万でも足りないのではないか」という不安感です。上映前の挨拶に「『足るを知る』がささやかな一歩」という言葉がありました。今回のまつりのテーマにある『平和』『平等』への近道はこの一歩からかも知れない。私も一歩踏み出そうという気持ちになり、この映画の終わりのような清々しい気分になりました。

ワークショップ



ぶんぶんフォーラム

「プラスチックってなんですか」



折り紙教室 向日葵

「折り紙を楽しもう」



水引の会

「水引で作るアクセサリ」



つばさ・木曜会

「大人のコラージュ」
自分らしさを求めて



折り紙と水引のアクセサリ
(作品の一部)



「慰安婦」問題ゼミ

テーマ
「性暴力は人権問題」

舞台発表

今年は、9団体の舞台発表がありました。出演された小学生から90代の皆様まで、緊張のなか練習の成果を出し切りました。あたたかな観客の拍手につつまれ、満足の笑顔が輝いていました。

ボランティア音楽会あおぞら



高齢者施設などを訪問し
音楽でボランティア活動をしています

文京新婦人コーラスあしたば



すてきな笑顔とハーモニーを
披露しました

手話ダンス花藻会



はつらつと愛らしい
「手話ダンス」に拍手喝采

脳トレ合唱団



結成満13年。「勇気を出そう」の
歌声は客席に広がりました

翔の会



4年ぶりの華やかなフラダンスに
みんなうっとり

扇和会



毎年の「まつり」での発表を目標に
練習を重ねています

コーロ・ヴィオレ



演奏と合唱で8曲のメドレーは
圧巻でした

日本のおどり文化協会文京



“日本文化の後継者”小学生が
民謡を踊る楽しい舞台でした

文京花笠愛好会



発足から29年
花笠踊りが大好きです！



最終日の「花笠音頭」は
元気な「日本のおどり文化協会文京」の
子どもたちと場内が一体となり
にぎやかで楽しい
エンディングとなりました

パネル・作品展示

文京母親連絡会



核も基地もいらない
平和を守る母親運動

ストロベリーキャンドル



植物画

翔の会



年は重ねても若々しく、
よく学び楽しく集いましょう！

文京区更生保護女性会



「更生保護」の活動紹介

本郷絵手紙あいあい倶楽部



感動をそのまま表現

新日本婦人の会文京支部



平和への願いを
つなげて！ ひろげて！

「慰安婦」問題ゼミ



性暴力は人権問題

東京第一友の会文京方面



適量で暮らす

町歩きとことこ会



皇居東御苑ツアー

女性会議文京支部



学習会で学んだこと

お茶席

和楽会・ほととぎす (表千家)



洗心会 (裏千家)



社会福祉法人佑啓会



パンとお菓子の販売

おやすみ処





メイン展示

今回12枚の展示をしました。その中からいくつか紹介します。

SRHR

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

1994年カイロからはじまった

SRHR 性健康と生殖健康に関する権利
セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

カイロ国際人口・開発会議 (ICPD) にて「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が初めて公式に提唱された

「女性の自己決定を尊重する」概念となる

女性の生涯を通じた健康にとって重要なものです。

1995年 第4回世界女性会議にて「女性の人権の一部」と認識

エンパワメントと共に確認され世界中の女性たちを勇気づけた!

2002年WHOがセクシュアルヘルスを定義しSRHRとひとまとめにされました

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
リプロダクティブ・ヘルス
妊娠したい人、妊娠したくない人、産む/産まないに興味もない人、アセクシュアル人(無性愛、非性愛の人)問わず、心身ともに満たされ健康にいられること

リプロダクティブ・ライツ
産むか産まないか、いつ何人子どもを持つかを自分で決める権利、妊娠、出産、中絶について十分な情報を得られ、「生涯」に関するすべてのことを自分で決められる権利

(出典) SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)の概念と権利とは

SRHR：性と生殖に関する健康と権利。すべての人の生涯を通じた健康にとって大事なものです。

SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)とは

自分で性と身体のことを決め守ることができる権利

SRHRの実現を妨げるもの

強はされた? 女性に押し付けられた? 産むを強いられた? 中絶は禁止!

SRHRの実現のために必要なこと

① 女性の経済的な自立
② 誰もが性と生殖について必要な知識を持つ
③ 産めない、産みたくないときに自分に適した避妊や中絶手段にアクセスできる環境

世界保健機関(WHO)の活動を通じていたるく世界的に権利を認められてきた権利を挙げています。作風に準拠しました。

更年期・更年期障害

女性の更年期はよく知られていますが、男性にも更年期と更年期障害があります。セルフチェックとセルフケアをご紹介します。

更年期障害?

◎セルフチェックをしてみましょう

女性

症状	強	中	弱	無	合計点数
顔がほてる	10	6	3	0	
汗をかきやすい	10	6	3	0	
腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
息切れや動悸がする	12	8	4	0	
寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0	
怒りやすい、すぐにイライラする	12	8	4	0	
くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0	
頭痛、めまい、せき気がよくある	7	5	3	0	
疲れやすい	7	4	2	0	
肩こり、腰痛、手足の麻痺がある	7	5	3	0	

◎合計点数が50点以上の方は婦人科その他医療機関の受診をおすすめします。

男性

①～⑩ チェック

① 性欲が低下した	⑥ もの悲しい・怒りっぽい
② 元気がない	⑦ 物忘れがひどくなった
③ 体力が低下した	⑧ 運動機能が低下した
④ 身長が低くなった	⑨ 夕食後にうたた寝をする
⑤ 毎日の楽しみが少ない	⑩ 仕事がうまくいかない

◎①～⑩のうち、3つ以上の項目に該当する場合、または①と⑦両方が該当の場合は、更年期障害の可能性があると考えられます。

更年期障害は、性別にかかわらず加齢、環境、性格、職場や家庭の人間関係などの身体的、心理的、社会的要素が複雑に関係して発症すると考えられます

自分と向き合い更年期を乗り切るために

◎運動習慣でセルフケア

＊太りにくい体になる ＊自律神経活動が活発になる ＊深い呼吸を維持できる
＊骨量に適切な維持 ＊コルチゾール値を下げる
＊ストレスに強くなる ＊発汗やワイルドに動かない ＊ケガをしにくい
＊寝付きが良い ＊持久力がアップ ＊肩こり・腰痛が改善できる

◎食事でのセルフケア

女性

女性ホルモン(エストロゲン)の不足を補う
大豆製品(大豆イソフラボン)に似た作用を持つ「イソフラボン」を摂る
＊豆腐、大豆納豆、味噌、豆乳
＊納豆、大豆イソフラボン含有食品(大豆イソフラボン)の摂取を促す
＊海藻類(わかめ・ひたひた)も効果が期待できる

男性

男性ホルモン(テストステロン)の不足を補う
肉に含まれる「亜鉛」や「ビタミンD」はテストステロンの分泌を高める
＊牛肉(赤身肉)
＊魚類
＊肉類に豊富に含まれるビタミンD(魚肝油)の摂取を促す
＊魚類

◎更年期というホルモンバランスが低下する時期は、長い人生の中で最も体と心のバランスを保つことが大切と実感
◎私たちも、これからはますます楽しく、長く元気でいられるよう

来場者の声

自分と向き合い更年期を乗り切る、食事でのセルフケアがあると分かりました。意識的にできることを伝えていただきました。

性差医療

女性と男性で、発症する症状、病態に違いがあり、急性心筋梗塞やうつ病を例に挙げました。急性心筋梗塞は、男性は胸痛を訴えることが多く、女性は腹痛や肩の痛みなど心臓病とは無縁と思われる病状が出るのが分かりました。

性差医療とは

男女の性別によって発症頻度や症状、病態に視点を置き、その結果を病気の診断・治療・予防法に反映する医療である。

性差：男と女 どう違うのでしょうか

1

発症で男女比が圧倒的にどちらかに傾いている病態がある

受療率[※]の差が認められる疾患(人口10万人対) 厚生労働省患者調査

男性に多い疾患	男性	女性	対比	女性に多い疾患	男性	女性	対比
痛風	21	1	21.0	骨粗鬆症	7	92	13.1
飲酒による精神行動異常	31	3	10.7	膀胱炎	2	20	10.0
食道の悪性新生物	10	2	5.0	鉄欠乏性貧血	3	18	6.0
注滅摘出および外傷性切斷	30	13	2.3	関節リュウマチ	14	55	3.9
心筋梗塞	20	5	2.0	関節症	69	213	3.1

※受療率 人口10万人あたりでどれだけの人が入院や通院で医療を受けているかを示すもの

2

同じ病気でも男女間で症状の表れ方が異なります

急性心筋梗塞の自覚症状の性差比較



性差医療の歴史

- 1967年 米・女性ジャーナリスト^{※1}が女性の健康を守る社会運動を結ぶ
- 1960年 サリドマイド薬害^{※2}
- 1977年 米・妊娠の毒性がある女性の薬物の治療参加の禁止
(女性は医学研究の対象から除外されてしまう)
- 1980年 アメリカ国立衛生研究所で女性特有の病態に関する研究が開始
- 1994年 FDAが「薬物の治験の際に女性を半分含めることを推奨」と通達
- 1999年 日本心臓病学会で「性差医療」の概念を正式提言^{※3}が紹介
- 2001年 日本初の「女性専用外来」が開院される(鳥取県立大学)
- 2004年 「性差・医療・性差医学研究会」が開設される
- 2008年 研究会から「日本性差医学・医療学会」へ発展

※1 バーバラ・シーマン氏
産後、産下術を服用、母乳を飲んだ自分の子どもが重篤な状態になる。自身の体験から始まった女性の健康を守る運動は、全美で、全国女性の健康ネットワーク創設に至る。

※2 サリドマイド薬害(世界で1万人の胎児が被害を受けた薬害事件)
てんかんのけいれんを抑えるのに効果的な薬として開発され、安全な睡眠薬の一種として使用されるようになった。しかし、不妊やつわりに悩む妊婦初期の妊婦がサリドマイドを配合した薬を服用した結果、胎児の手足、聴覚、内臓に奇形を起こす胎児の被害が広がった。

※3 日本の女性専用外来のバイオニア天野恵子医師は語る。
「20年前まで、日本の医療に性差の視点は全くありませんでした。
『女性外来』とは、性差に基づき女性医療です。
『増殖で多岐にわたる不妊に悩まされながら、果敢に理解されずに苦しむ女性たちにとって『良き相談相手』でありたいと思います。』

だれもが身体的特質を十分に理解し思いやりを持っていくために、心身及びその健康について正確な知識・情報を入手し、行動し、健康を享受できるようにしていく必要があります。ライフサイクルを通じて異なる健康上の問題に留意する必要があります。

私たちの注目

もはや「昭和でない」(男女共同参画白書)
「女性は家、男性は外のジェンダー規範さよなら」

「女性の健康」ナショナルセンター
女性はホルモンバランスの変化等で様々な健康上の問題が生じます。健康や疾病について心身における性差も加味し、ライフステージ毎に分析し、病態の解明と予防、治療に向けた研究を進める。

目的

- 女性の健康に関するデータセンターの構築
- 女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的な推進
- 情報収集・発信、政策提言
- 女性の体とこころのケアなどの支援等

女性の体とこころのケアなどの支援等に関するモデル的な取り組みを誰でもが等しく受けられるようにする。

「リプロダクティブ・ジャスティス(性・生殖・再生産をめぐる社会正義)」と提案(国会議員 中野聖)

女性の体とこころのケアなどの支援等

女性が人生の各段階で様々な健康課題を有していることを社会全体で共有し、女性が生涯にわたり健康で活躍できる社会を目指す

「リプロダクティブ・ジャスティス(性・生殖・再生産をめぐる社会正義)」と提案(国会議員 中野聖)

お茶の水女子大学ジェンダー研究所

注目

私たちはリプロダクティブ・ジャスティス(性・生殖・再生産をめぐる社会正義)に注目しています。

フェムテック・メンテック実物展示で見えてきたこと！

*フェムテック・女性用

女性特有の健康問題をテクノロジーで解決するための製品や技術・検査サービス・婦人科・助産師のオンラインサービス・衣類・スキンケア

*「生理用吸水ショーツ」・・・

「障がいを持っている人がナプキンの交換が要らないのでとても良い」

*自宅で出来る妊娠キット・検査キット展示・・・

「安価であることや自宅でリラックス出来るのが良い」

*シニア用チョイ漏れケアナプキン・パンツの展示・・・

「実際に触れることで確認ができ良かった」



*メンテック・男性用

男性特有の悩みを改善・治療等テクノロジーで解決するための検査キット・サービス等

*男性は病院に行くハードルが高く検査を受けにくい。

→ 自宅で「精子検査キット」の使用が出来るのは画期的！

*今回の展示で、多くの方が妊活でとても苦労していることが分かりました。

文京区 × I LADY.

文京区が取り組んで2年目を迎えた、若い世代の「文京区×I LADY.ピア・アクティビスト」の展示です。

20代と考える「自分を抑え込まないパートナーシップ」とは

「自分を抑え込まないパートナーシップ」について、センターにいらした皆さんとともにお話する展示を行いました。参加者の皆さんそれぞれが、ときには悩み、奮闘しながらも、相手との関係性のなかで、自分自身の軸も見失わない努力をされていることに気づきました。

皆さんのお言葉に勇気づけられただけでなく、私たち自身も今後とも学びを深め、日常的に取り組みながら、抑え込まない生き方を模索していこうと決意を新たにできました。



ピア・アクティビストの皆さん

資料コーナー

ジェンダー平等って何だろう？

～様々な価値観を持つ人がともに暮らす社会を生きる～

文京区男女平等センターの資料コーナーには、男女平等に関する児童書・図書・行政資料や全国の男女共同参画センター等の資料を揃えています。ビデオ等のメディアも所蔵しています。

今回のセンターまつりでは、ジェンダーやSDGsなどを中心に、子どもから大人まで幅広い年代に向けた本の紹介と展示を行いました。



配偶者暴力(DV)と子ども ~「面前DV」という虐待が及ぼす影響~

講師：工藤 宏子さん（文教大学大学院人間科学研究科講師・臨床心理士）

弱者へと向かう暴力(DV)の相談件数は増加しています。今回、NPO法人女性ネットsaya-saya 子ども相談員の工藤宏子さんに、「私たちに何ができるのかについて」お話しいただきました。

DVの基礎知識

DVとは、「配偶者や恋人など親密な関係にある、又は親密な関係にあった者から振るわれる暴力」のことです。殴る、蹴るといった「身体的暴力」、心無い言動等により相手の心を傷つける「精神的暴力」、避妊をしない、中絶を強要するといった「性的暴力」、お金を渡さない、働かせないといった「経済的暴力」というように、DVの形態は多岐にわたります。

日本において精神的暴力の一つである「モラルハラスメント」の認知度が上がったことや、SNSやメールでの相談が普及したことにより、DVの相談件数が増えた一方で、子どもや金銭面といった事情によって、相談をためらってしまう人がいることも事実です。

面前DVの基礎知識

子どもの前でDVが繰り返られることを「面前DV」といいます。面前DVは精神的虐待であり児童虐待です。暴力場面に遭遇させられる、暴力するように仕向けられる、マインドコントロールといったように面前DVの内容は多岐にわたります。「面前DV」を経験した子どもは、自律神経症状、成長障害といったような身体症状や、暴力的な言動、攻撃的な行動といったような精神的症状を起こすことが多くなります。面前DVは子どもの心と身体をおしばみ、深刻な影響を及ぼすのです。

私たちにできること

「もしかしてDVかも?」と思ったら、DV相談ナビサービスであるDV相談+（プラス）や、市区町村のDV相談機関があるということを伝えることがDV被害者が相談につながるきっかけとなります。

被害者を相談につなげることは、ひとりひとりにできることであり、DVの早期発見や被害親子の適切な対応につなげることができるのです。

当センターにも、相談室が併設されています。

また、相談窓口の案内カードなどを受付、ロビー、トイレに設置しています。

令和5年度 第2回 利用者懇談会

令和5年11月9日(木)

18:30~

「利用者懇談会」は、当センターを利用する方々の意見を聞く重要な事業です。

最初に、男女平等参画社会を目指したDVD「虐待防止シリーズ・配偶者の虐待」を視聴しました。家庭内で妻に暴力をふるう夫の事例、子どもの前で父親が母親に精神的暴力などをふるう面前DVの事例でした。

配偶者からの暴力相談件数は、前年度より4.7%増えています。30代、20代、40代、の順に多く、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力などDV防止法ができていても減っていません。

次に、参加者が4グループに分かれて、男女平等センターの事業、改修工事、登録団体活動フェアなどについて意見交換をしました。

センター事業のお知らせの仕方、改修工事期間中、他施設の利用についてなど、限られた時間でしたが活発な意見交換となりました。

お答えできなかった質問については改めて説明を行なうなどし、ご意見については今後の男女平等センターの運営に役立てていきたいと思っております。

カラーリボンフェスタを開催しました！

日時：令和5年8月22日（火）午前10時～午後6時、23日（水）午前10時～午後3時
会場：文京シビックセンター1階 ギャラリーシビック

カラーリボン（アウェアネス・リボン）は、社会運動や社会問題に対して、支援や賛同をさりげなく表す方法として用いられています。様々なリボン運動の活動を知り、支援につなげるため、13種類のリボン運動を集めた展示会を行いました。

2日間で延べ328人が来場し、来場者からは、「リボンに込められた思いが伝わった」「知らなかったリボンも多くあり、とても勉強になった」といった感想をいただきました。

来場者が好きな色のリボンを選び彩る「気づきのリボンタペストリー」では、様々な思いが込められた多くのリボンが飾られ、一人ひとりの“気づき”のきっかけとなりました。



リボンの紹介



パープルリボン

女性への暴力の根絶をはじめ、すい臓がんの啓発など社会や医療の各分野で用いられています。



レインボーリボン

平和やSOGIコミュニティを象徴する6色のレインボーフラッグから、多様性を認めるシンボルとして用いられています。

区HPIには、それぞれのリボンの意味や、参加団体の紹介を掲載しています。



文京区公式チャンネル(YouTube)から、本イベントの様子をご覧ください。



人権と音楽講座「アメリカ音楽からみる人種問題のいま 2023 ～ヒップホップを中心に～」を開催しました！

日時：令和5年10月13日（金）午後6時30分～午後8時30分
会場：文京区男女平等センター研修室A 講師：大和田 俊之氏（慶應義塾大学教授）

音楽は時代を映す鏡として、社会の影響を受けながら日々変化し続けています。

今回は、分かりやすい！面白い!!と評判のアメリカ文学・ポピュラー音楽研究者である大和田氏をお招きし、ヒップホップをはじめとしたアメリカの音楽史やヒット曲についてご講演いただきました。大和田氏が実際にアメリカに滞在した経験から語られる、ブラック・ライヴズ・マターなど人種問題の今についてのお話には、参加者は熱心に耳をかたむけていました。



参加者からのご感想

- 音楽という切り口で、身近な人種問題のニュースとの結びつきや社会問題を理解することができてよかった。
- 具体的な曲や本、ドキュメンタリーを紹介していただき、今後自分でさらに学んでみるきっかけを提供していただけて良かった。ニュースで見るアメリカの人種問題や社会の動きを深く理解することができたと思う。
- 気づかぬうちに差別をする心が自分にもあると思うのでアップデートしていきたい。
- 人種差別が今もこれだけ根強く残っていることを知らなかったが、今後も関心を持ち過ごしていきたい。

文京オレンジデーキャンペーンを開催しました！

11月25日は、国連が定める「女性に対する暴力撤廃の国際デー」です。

UN Women（国連女性機関）は、「オレンジ色」を暴力のない明るい未来を象徴する色として、11月25日から12月10日（人権デー）までの16日間、街中をオレンジ色に染める呼び掛けを世界中で行っています。

区もこの趣旨に賛同し、シビックセンター1階に事務所のあるUN Women日本事務所と協力し、暴力撤廃を呼び掛けました。



パネル展示

シビックセンター地下2階 区民ひろばで、DV（ドメスティック・バイオレンス）等の暴力防止についての啓発や、相談窓口の紹介を行うパネル展を行いました。

また、会場では、区長と区内協力団体のメッセージ動画の放映や、文京区女性団体連絡会や区議会議員等の協力による啓発品の配布を行い、多くの来場者にDV防止のメッセージを届けました。

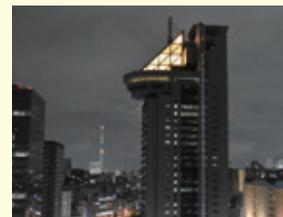


犯罪被害者支援出張相談所

故意の犯罪行為により身体的な被害を受けた方やそのご家族・知人など、犯罪被害者の方のために、区内警察四署（富坂、本富士、大塚、駒込）の協力により、相談会を実施しました。

オレンジライトアップ

シビックセンター屋上の三角屋根をオレンジ色に照らしました。



その他、区内大学・企業をはじめとする大勢の方にご賛同いただきました。

令和5年度 犯罪被害者週間行事を開催しました！

日時：令和5年11月23日（木・祝）午後1時30分～午後4時30分

会場：文京シビックホール 小ホール

講師：上谷 さくら氏（弁護士 桜みらい法律事務所）、齋藤 梓氏（上智大学総合人間科学部心理学科准教授）

コンサート：警視庁音楽隊 金管アンサンブル、警視庁カラーガード

11月25日から12月1日は犯罪被害者週間です。

犯罪被害者週間は、期間中の集中的な啓発事業等の実施を通じて、犯罪被害者等が置かれている状況や犯罪被害者等の名誉又は平穏な生活への配慮の重要性等について、理解を深めることを目的とするものです。

区では、東京都との共催により、令和5年度犯罪被害者週間行事「寄り添い続ける支援～性暴力被害とは何か～」を開催しました。

犯罪被害者の刑事事件・民事事件を専門とする弁護士、上谷氏による講演では、「改正刑法から考える性被害の実情と課題～子どもから大人まで」と題し、不同意性交等罪や性的姿勢等撮影罪など、改正刑法という難しい内容について、分かりやすく解説いただきました。

臨床心理学・被害者心理学を専門とする上智大学准教授、齋藤氏による講演では、「性暴力被害はどのように起きるのか～被害の起きない社会を目指して」と題し、性暴力がなぜ“暴力”と言われるかをはじめに、被害者に及ぼす影響や私たちにできることについて優しい語り口でご説明いただきました。

講演後には、都民と警察を結ぶ「音の架け橋」として活動を行う警視庁音楽隊・警視庁カラーガードによる、ディズニー・プリンセス・メドレー等の大迫力の演奏・演技が行われ、会場は大きな拍手に包まれました。

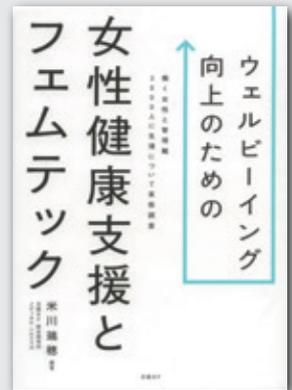


『ウェルビーイング向上のための女性健康支援とフェムテック』

米川瑞穂、日経BP総合研究所メディカル・ヘルスラボ編著／日経BPマーケティング

「これまで、生理など女性特有の健康課題はタブー視され、女性自身も多くを語らず男性や企業側は「女性個人の問題」と向き合ってきませんでした。しかし、健康経営や女性活躍推進のためには、健康課題への対処が不可欠なものになってきています。」（表紙裏面より）

本書では、数千人を対象に行った最新調査から多くのデータを公開し、女性が職場で抱えている生理の悩み、仕事や生活への影響に対して、求められている支援策などを紹介しています。



これからのセンター事業の予定

■令和6年1月30日（火）14：00～ 区政を知る事業2

始めませんか！質の良い睡眠をとるために～健康づくりのための睡眠12ヶ条～

■令和6年2月17日（土）10：00～11：30 プラスワンセミナーⅣ 講師：浅野 幸子さん
避難生活で「命と健康」本当に守れますか？

■令和6年3月9日（土）13：00～16：00

女性活躍推進事業「映画とトーク」

映画：「ある職場」監督 船橋 淳

第33回東京国際映画祭TOKYOプレミアム 2020出品作品から

トーク：15：30～16：00

登壇者：船橋 淳さん 映画監督

藤井 麻莉さん 弁護士、文京区男女平等参画推進会議委員

ワールドセールス：Article Films 植山 英美、2020年／135分／カラー&モノクロ／169／DCP



©BIG REVER FILMS



編集後記

第38回男女平等センターまつりを特集しました。久しぶりに制限のない開催となったまつりを無事終わらせることが出来、「良かった」「感動の2日間」など嬉しい感想をいただきました。以前に戻るのではなく変化も大切にし、センターまつりで継承してきた各団体の力を大切に前進していきたいと思ひます。